

追悼 ツォクトバートル博士

モンゴル科学アカデミー古生物学研究所前所長、ツォクトバートル博士が2026年6月23日にご逝去されました。享年67歳でした。

モンゴル古生物学の発展に生涯を捧げ、国際的な学術交流の推進に多大な功績を残された傑出した研究者を失ったことは、モンゴルのみならず世界の古生物学界にとって大きな損失です。ここに謹んで哀悼の意を表します。

ツォクトバートル博士は、モンゴル北部のセレンゲ県に生まれました。モンゴル国立大学卒業後、モンゴル科学アカデミー地質学研究所と古生物学博物館の若手研究者として研究活動を開始されました。この時期にはソ連との共同調査をはじめ国内の調査に参加し、豊富な野外経験と研究技術を培われました。また1980年代半ばには、日本で開催されたモンゴル産恐竜化石巡回展にもスタッフとして参加し、日本各地で展示活動に携わられました。

1991年以降は、海外の研究機関との共同研究・共同調査の中核を担い、モンゴル古生物学の国際化を力強く推進されました。専門はハドロサウルス類であり、海外との共同調査の過程で発見され、のちに氏らによってゴビハドロス・モンゴリエンシスと名付けられた恐竜の研究などをベースとして日本の鹿児島大学において博士の学位を取得されました。その後もモンゴルから産出する重要な化石の研究を通して、白亜紀に繁栄したこのグループの進化史解明に大きく貢献されました。

研究所では、故バースボルド博士を長年にわたり支えながら、研究機関の運営実務を担われました。政治体制の変化や経済的困難という激動の時代にあっても組織をまとめ、海外で開催されるモンゴル恐竜展の企画・運営や国際共同研究の推進を通じて、モンゴル古生物学の発展とその成果の世界への発信に尽力されました。また、海外に所在するモンゴル産化石標本の返還活動や国内の重要化石産地の保全にも積極的に取り組まれました。ゴビ砂漠南東部シャルツァフ地域におけるユネスコジオパーク設立を目指す活動にも深く関わるなど、研究のみならず自然遺産の保護と古生物学の普及にも大きな足跡を残されました。

日本の古生物学者、大学、博物館との交流にも長年尽力され、その功績により2022年には日本国外務大臣表彰を受賞されました。また、モンゴル国内においても2025年の功労科学者表彰をはじめ、多くの権威ある表彰を受けています。

ツォクトバートル博士は、昨年8月に逝去された故バースボルド博士とともに、モンゴル恐竜学を世界へと開き、アジアの古生物学・恐竜学の発展に極めて大きな貢献を果たされました。その学術的功績と国際協力への献身、そして後進の育成に注がれた情熱は、これからも多くの研究者に受け継がれていくことでしょう。

私たちは、ツォクトバートル博士の多大なるご功績に深い敬意を表するとともに、そのご逝去を心から悼み、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

石垣 忍（岡山理科大学 古生物学・年代学研究センター特命教授 恐竜学博物館
名誉館長 アジア恐竜協会事務局理事）